

映画MINAMATA 公開とその後

水俣高校2年 淵上 瞳生

要旨

映画MINAMATAが公開されたあとの様々な反響をインタビューによって調べたその結果を元に、水俣の過去が映画化されたことで水俣や水俣病について沢山の人が興味を持つきっかけになったのか考える

背景

○水俣の過去を描いた映画が公開されたことでどのような反響があったのかを調べる

目的

○自分が育った場所の歴史をハリウッドが映画化したことで起こる影響が知りたかった
○映画が公開されたことで水俣の存在が今まで以上に世に認知されるということの確認

仮説

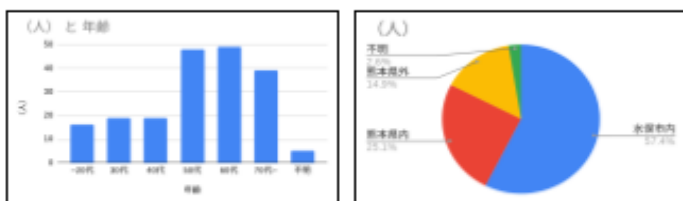
1. より多くの人々に水俣を知ってもらう機会になった
2. 映画を見た人が水俣について興味を持つきっかけになった

調査研究手法

○インタビュー

結果

○水俣市先行上映動員観客数データ



→50代から70代の観客が多く、市外からの観客は約40%（水俣先行公開時のアンケートより）

○水俣で先行公開を行った真意

→水俣の若い世代の人たちに一番見てほしかった。また、映画というエンターテインメントになったことで水俣のことを多方面の人に知ってもらえるチャンスだと思った。

—MINAMATA上映実行委員会 宮本信明様

○全国上演状況（12月12日まで）

上映館数：249館

総動員数：約15万人

○興行収入：170万アメリカドル

水俣の方々、映画に関係した方々の声

加藤タケ子様

水俣の映画は、エンターテインメントとなることで、公害問題を大衆化させる役割を持つ

中牟禮和也様

人々の中の水俣病に対する印象が単なる公害の内のひとつというものから、重大な問題というものになることが望まれる

宮本信明様

この映画が、水俣市のもやい直しにもやい直しに繋がることを願う

アイリーン・美緒子・スミス様

映画そのものではなく、映画を見た一人一人がなにを感じたかが大切
沢山の人が興味を持ち、一つの問題について考えたという結果が宝

どの方も、「映画MINAMATAは水俣と水俣病のことを知ってもらう機会になった」と話しておられた

人々が興味を持ち、それにより何らかの行動を起こして、より深く水俣のことを学ぶきっかけになることを望む

結論・まとめ

○映画MINAMATAは今まで水俣病や水俣が歩んできた歴史を知らなかった人々が興味を持ち、考えるきっかけとなった

また、“映画”というエンターテインメントの形にしたことで多方面の人々に水俣を知ってもらい、水俣病という問題を風化させることなく後世に残すことができる

展望

○もっとたくさんの方々のお話を聞くなどして、自分自身の知識をより増やしていきたい

